

平成 22 年度 倉吉西高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

10年後を見据えた人間力を高めるための中長期目標を設定した上で、学校の特色である「倉西夢きらりアクションプラン」を実践し、生徒の実態、社会の変化や学校の課題を客観的に把握し、教育の適正化を図ろうとする学校の姿勢を高く評価する。校長は、自らの学校経営のビジョンを教職員通信で伝え浸透を図り、教職員もその意図を理解し、協力・協働体制を整え、生徒の良さや可能性を見出し、生徒の自己実現達成のために一丸となって教育活動に取り組んでおり、学校全体の活力を感じた。「チャレンジグループ活動」や「フィールドワーク in 関西」など学校の多くの教育活動では、学ぶ意欲を喚起したり、好奇心をもって挑戦する機会がある。これらの体験的な学習を通じて、生徒が自分の将来像をイメージしながら進路選択できるシステムづくりに成功し、進学実績を向上させ、地域の信頼を得ていると見ることができた。

委員会として、高く評価し、今後も維持・発展させて欲しいとしている点は、次の5点である。

- ① 豊かな知性と幅広い人間性の育成を柱とする「倉西夢きらりアクションプラン」を策定し、それをもとに特色ある教育推進を行い、成果を上げている。
- ② 地域の教育力を積極的に導入・活用した横断的な教育活動を展開することにより、生徒の社会に対する理解を深めるとともに、自己理解をした上での適切な進路選択が行われている。
- ③ 生徒の学ぶ意欲を引き出し自信と達成感を与えようとする学校の姿勢や教師の働きかけなど、学校全体の進学に対する積極的な雰囲気醸成されている。
- ④ 学校関係者評価からの意見や提言に的確、迅速に対応しているなど、即行動する意識が教職員に徹底されている。
- ⑤ 学校便りや学年便りの月一回ペースでの発行、ホームページやメール配信サービスなど、教育活動への理解と協力を得るために積極的な情報発信に努めている。

一方で、委員会として課題として捉え、改善していただきたいのは、次の5点である。

- ① 服装指導について、担当グループにやや負荷が掛かっており、学校全体の問題として取り組む体制を整備する必要がある。
- ② 授業改善については、授業アンケートの結果分析が個々の教員や各教科に委ねられており、学校組織全体としての取組には至っていない。
- ③ 勤務時間管理への配慮がなされているが、昨年度の調査では、年間をとおして0時間の者が9名あり、時間外勤務申請が適切に行われているか危惧する。
- ④ 予備校や先進校等での研修で得た知識やノウハウを全職員に還元する方策が十分でない。
- ⑤ 自己評価表の現状、目指す姿、達成のための方策が連動していない。

現在、倉吉西高では、明確な教育方針のもと、教職員一丸となって、生徒の学ぶ意欲の喚起や学力の質的向上及び大胆な組織改編に取り組んでいる。これらの課題を解決し、一層活力のある学校へと発展されることを期待したい。